

私たちと一緒に  
「挑戦」しましょう！

水の中で見つけた、自分の輝き

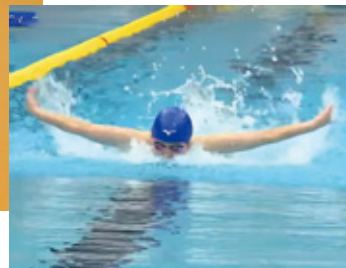
続ければ夢は叶う



きむら さあや  
木村 倅彩さん

出場種目 水泳(知的)

25m・50mバタフライ



「水泳で一番楽しいのは、遠征で全国のライバルや友達と競い合い、メダルを獲れたり自己ベストを更新できたとき」と笑顔で話してくれます。とりわけ印象に残っているのは、6月の日本知的障害者選手権。右肩を故障し練習もままならない中で迎えた大一番でした。世界選手権出場がかかった試合で派遣標準記録を突破できた瞬間にこみ上げた喜びと達成感は忘れられないそうです。

日々を支えてくれる家族やコーチへの感謝も忘れません。「どんな結果でもそばで応援してくれる家族、気持ちが揺れるときでも夢を一緒に追いかけてく

れるコーチ。本当にありがとう」とまっすぐな言葉を届けてくれました。

今後の目標は、12月のアジアユースパラリンピックで金メダルを獲ること。そして、夢はパラリンピック出場です。「3年間ベストが出ず、苦しくて泳ぐのが嫌になったこともありましたが、でも練習を続ければ必ず夢は叶う」と、自らの経験をもとに力強いメッセージを語ってくれました。

倅彩さんにとってスポーツの魅力とは、「仲間やライバルと喜びも悔しさも分かち合えること」。水の中で挑み続けるその姿が、次の夢へとつながっています。

## 誰もが スポーツ つながる

走る姿、投げる瞬間、歓喜くし、誰かの挑戦を応援する  
**日本スポーツマスターズ2025  
全国障害者スポーツ大会**（滋  
15日からは**東京2025デフリ**  
今治から挑戦する選手た  
持つ力を一緒に感じ、応援の



すぎの えりこ  
杉野 恵莉子さん

出場種目 卓球(精神)

ここ4～5年は多い時で週4回練習を重ね、卓球に真剣に向き合ってきました。「スマッシュが決まった瞬間は最高に気持ちいい。サービスエースが決まると声も出ます」と杉野さん。試合では相



手の戦術を読み、一球ごとに立ち位置を変えて対応。得意のバックハンドでつなぎながら相手のミスを誘うのが持ち味です。去年のサンアビ杯では、心も体もかみ合い、強豪相手に120%の力を発揮して勝利。忘れられない経験となりました。

### 一球にかける情熱

### 勝利を信じて打ち抜く

熱く戦う姿の裏には、家族の存在があります。「子どもにカッコイイ姿を見せたい。メダルは金しか見えていないので、メダルを子どもにかけてあげたい」と熱い想いを語ってくれました。

これからも卓球を続け、何歳まで優勝できるか挑戦していくのが目標。「障がいがあっても、みんなで一緒にレベルアップできるのがスポーツの魅力。区別ではなく、対等に楽しめるのがいいところ」と話します。

仲間と共に切磋琢磨し、家族の想いを背負って挑む杉野さんの姿は、スポーツの持つ力強さを改めて感じさせてくれます。

# ボッチャがくれた挑戦の勇氣

## 支えがあるから強くなれる



みつなが こうめい  
光永 倖明さん

出場種目 ボッチャ



# を楽しみ、社会へ

のゴール。スポーツは人を熱喜びを与えてくれます。今年は愛媛大会（愛媛県初開催）、賀県）が行われ、さらに11月ンピックが開催されます。ちの姿を通して、スポーツが輪を広げていきましょう。

小学校6年生のとき、授業やお父さんの仕事をきっかけに始めたスポーツ。やってみるとすぐに楽しさを感じ、気づけばもう3年が経ちました。練習を重ねる中で一番うれしい瞬間は、思い描いたところにボールを投げられた時。「上達したな」と実感できるのが励みになっています。

これまでで特に印象に残っているのは、県大会でベスト4をかけた試合。タイブレークの末に勝利を収めたときの喜びは忘れられません。最初に出場した大会では1回戦で敗れてしまい悔しい思いもしました。しかしそこから練習を重ね、

次の大会で良い結果を出せたことが、大きな自信につながっています。

「支えてくれるすべての人に感謝しています。練習に連れて行ってくれたり、コツを教えてくれたり。本当にありがとうございます」と、応援への思いもまっすぐに語ってくれました。

今後の目標は「大会で優勝すること」。その先には、同じようにスポーツを頑張る仲間へ「負けていても最後まで諦めないで」と力強いメッセージを届けます。失敗しても次のプレーで巻き返して逆転できる。そんなスポーツの魅力を胸に、挑戦はこれからも続いていきます。

### 競技紹介

## ボッチャ

ボッチャは重度の脳性まひ者や四肢まひ者のために考案されたスポーツです。誰もが自分の意志でプレーできる工夫は、パラスポーツの理念を体現しています。ジャックボールと呼ばれる白い目標球に、赤・青のボールをいかに近づけるかを競う、シンプルなルールながら技術・戦略は奥深く、観客を楽しませてくれます。

ボッチャは頭脳戦と言われる通り、何手も先を読んで、自分が優位に立てるように位置取りをしています。相手のボールを弾いたり、時には的となるジャックボールを弾いて移動させたりと、戦略を実行するための技術力も求められます。

日本パラスポーツ協会『全国障害者スポーツ大会ガイド』より



ボールは規定内（重さ275g±12g、大きさ270mm±8mm）であれば、素材や固さなどカスタマイズできる。ボール選びも戦略のひとつ。



## 3人が出場予定! 「第24回全国障害者スポーツ大会」10.25(土)～27(月)

- 参加資格／身体障がい、知的障がい、精神障がいなどの障がいがあり、13歳以上で都道府県や指定都市から選考された選手
- 個人競技／陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、ボッチャ
- 団体競技／車いすバスケットボール、グランドソフトボール、フットソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー



全国障害者スポーツ大会  
ホームページ



今治市障がい者文化体育施設  
サン・アビリティーズ今治 施設長

えびい しほ  
胡井 志保さん



## 笑顔の輪をもっと広げたい

サン・アビリティーズ今治は、パラスポーツの体験や大会を通じて、挑戦できるきっかけをつくることにも力を入れています。利用者の方から「ここ来ると元気をもらえる」と言っていただけるのは本当にうれしいです。これからも“元気をもらえる居場所”であり続けたい。そして、世代や立場を超えて笑顔の輪をもっと広げていきたいですね。

## 大会はみんなで作るもの

特に印象に残っているのは、利用者親善ボッチャ大会です。障がいの有無や年齢に関係なく、誰でも一緒に楽しめるよう工夫しました。会場では、お互いに褒めあったり、声をかけあったり、思いやりをもちながらプレーする方が増えていきました。その光景を見て、「スポーツは勝ち負けだけでなく、人と人がつながり、笑顔や応援が生まれることにこそ価値がある」と改めて感じました。あの場面は、私たちがサンアビで育ててきた雰囲気が、ひとつの形として現れた瞬間でした。



## 誰もが気軽に立ち寄れる場所

障がい者のための施設と思われがちですが、実は障がいのある方もない方も一緒に楽しめる場所なんです。スポーツをしたり、おしゃべりをしたり、利用の仕方はさまざま。子どもから高齢者まで幅広い世代の方が集まっています。ここに来れば顔なじみができて「また来たよ」と声をかけあえる。そんな「人とのつながりを今の時代でも感じられる」ことが最大の魅力だと思います。



### サン・アビリティーズ今治

TEL 0898-48-3477

FAX 0898-47-3629

住 所／喜田村2-1-10

時 間／9:00～21:30

休館日／火曜日、祝日、年末年始

※火曜日が祝日の場合、水曜日も休館



愛媛県聴覚障害者協会会長

しまなみひうち聴覚障がい者協会事務局長

あおい ひとし  
**青井 均さん**

## 100周年を迎えるデフリンピック※日本初開催! (11/15~11/26)

デフリンピックが日本で開かれるのは今回が初めてなんです。しかも、ちょうどパリで始まってから100年の節目。その記念の年に開催されることを、とてもうれしく思います。私はスポーツが大好きなので、日本中でデフリンピックが盛り上がるのが楽しみです。開催が待ち遠しいですね。

デフリンピックは、まだまだ知名度が高くありません。オリンピックは誰でも知っていますが、デフリンピックはやっと30%くらい。だからキャラバンカーで県内の市町を回り、地道にPRしてきました。理事会でもどうやってデフリンピックを広めていくかを話し合っています。

※きこえない、きこえにくい人のための国際的な総合スポーツ競技大会です。つまり、デフアスリートのための“オリンピック”ともいえる存在です。



大会開催地の東京都を目指して日本全国を巡回する「東京2025大会デフリンピックPRカー」



### “音のないスポーツ”を知ってほしい

デフリンピックの競技は、音のない世界で行われます。スタートのピストル音もなく、みんな補聴器を外して公平に競技します。「音のない世界でスポーツをする選手たちがいる」ということを、まず知ってもらいたいです。そして、デフリン

ピックならではの工夫も合わせて見てもらえるとうれしいです。

“障がいがあるから無理”ではありません。きこえなくても、私たちはスポーツができるんです。きこえる、きこえない、関係なくお互いに応援し合えるようになったらと思います。子どもの頃から、学校の授業などでデフリンピックを知る機会がもっと増えることを期待しています。



東京2025デフリンピック  
ホームページ

### できないではなく、 “一緒にやってみよう”

大切なのは、“障がいがあるから無理”という考えをなくすことです。サッカーも、野球も、一緒に楽しめる。私たちはきこえませんが、手話や身振りで通じ合えるんです。大切なのは気持ち。勇気をもって声をかけてほしい。

そして最後に伝えたいのは、「私たちを特別視するのではなく、自然に見てほしい」ということ。当たり前にもスポーツをしている姿を、普通のこととして見てもらえたら、私たちはとても幸せです。

スポーツには、笑顔も涙も、努力も感動も、すべて分かち合う力があります。

障がいのあるなしを超えて、一緒に楽しみ、応援し合える社会へ。

今治からその輪を少しずつ広げ、誰もが心からスポーツを楽しめるまちを目指していきましょう。